

お仕事についてのノンフィクション

今回はお仕事について書かれたノンフィクションを紹介します。

1冊目は、杉窪章匡/著『「365日」の考えるパン』です。

東京の代々木公園にある人気のパン屋さん「365日」。この本では、オーナーシェフである杉窪さん自身の、パンに対する考え方や名物商品の解説が書かれています。

365日の大きなコンセプトは、パンに国産の小麦粉だけを使うこと。小麦粉だけではなく、食材はなるべく国産を、野菜は無農薬または減農薬を使って作られます。ベーコンやあんこといった加工品も自家製。そこまでするのは“毎日の食事こそ、体にも心にもいいものを”という思いから。その思いは「365日」というお店の名前にも表れています。

また、スペシャルページとして家庭でも作れるパンのレシピがフルカラーで掲載されています。

パンとパン屋さんのことが、より一層好きになれる一冊です。

2冊目は、館野仁美/著『エンピツ戦記～誰も知らなかったスタジオジブリ～』です。

この本では、スタジオジブリで27年間アニメーターとして活躍されていた著者が、当時の思い出を綴っています。

海の波は動きに合わせて塗る色の種類を変えることや、キャラクターの歩き方やまばたきの仕方について何度も修正したことなど、描かれたエピソードの端々に世界的なアニメーション制作会社ならではの妥協のない仕事ぶりがうかがえます。

ほかにも、取締役である宮崎駿さんが空を飛ぶ鳥に向かって「おまえ、飛び方まちがってるよ」とダメ出しをした、スタッフロールの中にペットの猫の名前を入れたといった驚きの裏話も。

仕事への情熱がひしひしと感じられる一冊です。

3冊目は、いしいあや/著『ニジノ絵本屋さんの本』です。

この本は、ひよんなことから絵本屋さんを開くことになったいしいさんの奮闘記です。ニジノ絵本屋さんは雑居ビルの3階にある小さな絵本専門店。その広さはなんと1.5坪。その上、いしいさんには本に関する業界の知識がまったくありませんでした。

手探りの状態から始まる絵本屋さんですが、狭すぎて本がほとんど並べられず、仕入れも思うようにいきません。そこで、「仕入れができないなら、絵本を自分で作ってしまおう」と一から絵本を出版することに。その後も、オリジナルグッズを作ったり、作品展を開いたり、海外でトークイベントに参加したりと挑戦の連続。その中で出会ったたくさんの人たつに支えられ、活動はどんどん広がっていきます。

読むとチャレンジ精神が湧いてくる一冊です。

図書館にはこの他にもお仕事に関する本がたくさんあります。ぜひ図書館にお越しください。